14 狩野（かの）城跡

狩野城跡は伊豆半島の中心部・伊豆市のほぼ中央に位置し、国道136号線、清流狩野川と柿木川との合流点に隣接する標高189㍍の小高い丘にある。**狩野城**は平安後期（1100年頃）より室町時代後期の15世紀末までの約300年間に亙り伊豆の豪族・**狩野氏**の居城で、今なお明瞭に遺溝を残す中世の山城である。東側は狩野川の断崖に、北側は柿木川、南側は北沢川とそれぞれ侵食された急斜面をもち、三方を遮断された天然の要塞である。展望も良く、田方平野から箱根連山、天城連山が望め、下田街道を監視することもできた伊豆の南北を結ぶ要衝であった。城跡は標高189㍍の「**中郭**」を中心として北東方面に「東郭」と「出丸」、南方に「南郭」、西方に「本郭」と「西郭」を擁し、それらは大空堀や二重堀、竪堀などで仕切られ、その周辺には無数の土塁や堀切りなどがめぐらされている。

足利幕府、織田、豊臣、徳川幕府と数百年にわたり、御用絵師として活躍した**狩野派**は、この狩野一族から生まれている。

平成13年から16年にかけて、この周辺の森約16ヘクタールを**狩野城跡生活環境保全林**として、遊歩道や花木を植栽して整備してきた。併せて災害防止のため数箇所に谷止工が造られている。

城跡の遊歩道を利用して歩けば、歴史の息吹と四季折々の自然が楽しめる。

修善寺駅から**湯ヶ島温泉**行き、**昭和の森会館**行き、**河津駅**行きのバスで15分、**柿木橋**で下車する。車利用の場合は柿木橋を渡って右へ500㍍行った所の**本柿木農村公園**に駐車できる。「この狩野城跡は、平安末期（1100年頃）、狩野氏によって築かれた城の跡である。標高190㍍の城域には、鎌倉時代に発達した

▲狩野川畔から見た狩野城跡

伊豆の豪族狩野氏300年間勢力を奮った山城 狩野一族から御用絵師として狩野派が誕生

二重堀を備え本郭・西郭・南郭・中郭・東郭・出丸に区分される。中世山城の遺溝が、築城千年近くも保存されている重要な史跡である。

狩野氏は祖・狩野維景（これかげ）が駿河の守を退任し、初め、市内日向に館を構えたが、その子・狩野維職（これもと）が伊豆押領使を務めるなど、軍事上の必要もあり要害の地を選んで、この地に移った。最初の城主は二代維職か三代維次（これつぐ）と思われる。

維景から五代の孫・茂光（もちみつ）は、その子・親光（ちかみつ）と共に源頼朝に従い、治承四年（一一八〇）石橋山の合戦で敗北自刃したが、子孫は鎌倉・室町両幕府に伊豆を代表する武将として仕えた。

明応二年（一四九二）からの北条早雲の伊豆侵攻の折り、城主狩野道一（どういつ）は足利方に付き戦い、明応七年に敗れて開城した。その後、一族は小田原に移り、後北条氏の重臣として要職を歴任している。

室町時代中頃から絵師として栄えた、狩野派の初代狩野正信（まさのぶ）は、維景から十六代の孫である。

伊豆市教育委員会**柿木橋**のたもとに狩野派発祥の地を知らせる大きな看板がある。橋を渡った右手に案内図があり、石段から丸太の段を上る。急な丸太の段から振り返ると国道136号線と狩野川が一望できる。上り切ってテーダ松の林を抜けると**城山下**の分岐。左にジグザグと上ると**森林学習空間の森**。南側から上がってきた道と合流して右に上がると**出丸跡**。この辺りうっそうとした森の中である。

丸太の段を下って上り返し右に**東郭**を見送ると、すぐに左に丸太の段がある。上れば武将の霊を祀ったという**題目堂**。

前方に見える**中郭**が、この城跡の最高点である。周辺は芝生広場となっているのでお弁当を広げるには最適な場所である。戻って**本郭跡**から樹林帯を歩けばクヌギ林の四つ角にぶつかる。右へ行けばヤマボウシが植栽された広場で、眼下に田園風景が広がっている。雑木林を下れば桜ヶ洞の堰堤を越えて**本柿木農村公園**に出る。休憩舎で一休みしたら裾を巻く山道を辿って**城山下**の分岐を過ぎ、そのまま真っすぐ行けば、前に通った道を**柿木橋**へ下る。随所に道標があり、ぐるりと一周しても1時間もあれば十分回って来られる。

農村公園から市道を600㍍ほど行くと**法泉寺**の天然記念物の**しだれ桜**がある。3月下旬には桜まつりも催され、多くの花見客が訪れる。

コースタイム（参考）　所要時間：約1時間

修善寺駅 —バス 15分→ 柿木橋 —15分→ 城山下分岐 —10分→ 題目堂（中郭） —15分→ 本柿木農村公園 —10分→ 城山下分岐 —10分→ 柿木橋

本柿木農村公園 —15分→ 法泉寺（しだれ桜）

▲森の中の遊歩道

▲題目堂

▲中郭の広場